

## 目標

我々、いわき経済同友会会員は、企業経営者の異業種交流活動を通して、三つの目的を達成し、仲間の連帯を深め、地域経済の発展と活性化をはかり、夢と希望に満ちあふれた地域社会づくりをめざします。

# SEA IWAKI

8月号／2009年8月1日発行

## 3つの目的

- 1つ よい社会をつくろう
- 2つ よい経営者になろう
- 3つ よい経営環境をつくろう

## 7月例会・納涼懇親会 開催

講演『ピンチをチャンスに 地域と共生』 講師/スパリゾートハワイアンズ 取締役企画部長 坂本征夫氏

於 スパリゾートハワイアンズ 平成21年7月15日(水) 午後6時30分～



円内は講師の  
坂本政征夫氏

梅雨が明けたかのような蒸し暑い一日でしたが、多勢の会員が出席して例会が開催されました。三室啓記例会委員長の司会、阿部好則会員の三つの目的唱和があり、里見潤代表幹事より、「いわきのふるさと誘致センターを2年前に立ち上げた。首都圏の団塊の世代の方々に第2の人生をいわきの地で過ごしてもらうためだが、毎年、徐々にではあるが実績を上げつつある。センターのねらいとしては、いわきの減少を少しでもカバーするという意味もあるが、もう1つのねらいは、首都圏で身に付けたノウハウや人的ネットワークといわきの企業を結びつけて、いわきの企業のパワーアップに人材をうまく活用できないかというねらいがある。同友会の会員企業もこのような人材が欲しいということがあれば、首都圏の団塊の世代の方々とうまくマッチングさせたい。

社会的つながりを持った活動をしてみたいという方々が多数いらっしゃる。なんとかマッチングさせ

て会員企業のパワーアップにつなげていただきたい」とお願いを兼ねたあいさつがありました。引き続き事務局報告、グループ会報告、委員会報告、誕生月花鉢プレゼントが贈られました。

7月誕生月プレゼント  
ほうずきが贈られました



左から岩尾英子さん(7/17生) 里見代表幹事  
松崎總一郎さん(7/21生) 松原茂さん(7/18生)

**要旨****演題 ピンチをチャンスに 地域と共生**

講師 スパリゾートハワイアンズ 取締役企画部長 坂本 征夫 氏

「ピンチをチャンス」にというテーマでお話する前に、スパリゾートハワイアンズを立ち上げた創設者中村豊氏をご紹介します。

中村氏は明治35年佐賀県生まれ。昭和2年に東京大学経済学部卒業。その年常磐炭鉱の前身、入山採炭株に入社。常磐湯本温泉観光株としてハワイアンズの初代社長。昭和42年常磐炭鉱社長に就任。昭和62年に85歳で亡くなりましたが、「ピンチをチャンスに」というのは50年、100年前からどのトップも行っていたことで、中村氏も中村流の考え方でピンチをチャンスに変えてきました。ピンチからチャンスをものにした企業が大企業として生き残れて来たわけです。

そこで今回は『中村語録』から推察するハワイアンズ経営のバッグボーンをお話します。

炭鉱(やま)の灯が消える。当時従業員16,000人。家族を入れると60,000人弱。企業城下町のような形態だったが、常磐の明日はない。いわきの経済も疲弊してしまうだろう。中村氏は強烈な危機意識(ピンチ)を抱き、考え方を変えて〈チャンス〉みたのです。従来は炭鉱延命の構造改革や炭鉱延長線上での企業変革でしたが、中村氏はそのギャップをバネにし、定石を打ち破ってチャンスをものにしたのです。環境適応事業への変革、それは日本のハワイ“常磐ハワイアンセンター”将来の収益基盤を構築するための創出でした。

### 1. 『16番目の子会社』を“常磐”的将来の礎とする。

背水の陣であり、崖っぷちに立たされた全従業員に不退転の気持ちを聞かせ、しかし全員営業経験なし。学歴、職歴とは関係なく、本人の能力を重視したのです。不平や不満はませんでした。パート、若い人、中卒の板さんにも声をかけ、全従業員の名前や家族構成も把握していましたが、管理職、特に部長職以上にはとても厳しかったのです。このことはアメリカ、スターバックスコーヒーの社是「われわれは従業員を人として尊重し、重視します」の考え方から来るものでした。中村氏は、天国と地獄を同時に歩いていたのです。他人の意見には耳を傾けるが、同調はしませんでした。「それには及ばん。あとは、わしがやる」が口癖。そして、「企業のミッション、使命は、差別化ではなく、独自化でなければならないといけない」というのが持論でした。常磐ハワイアンセンターの経営資源は、日本で唯一のハワイアン・テーマパークというブランドとリスクのあるビジョンを実現するために、意思決定し実行できる組織文化であること。考え方を変える。構造改革、企業革新、組織の変革などを言い続けても、なぜ変わらないのか。考えられる原因是一つです。考え方を変えなければダメです。定石でやっていても変わりません。また、考え方方がパターン化していると、現場の人たちには反応しません。

### 2. 『独自(手作り)』の徹底追求

差別化では闘えません。独自化まで進めないとけ

ません。それが、「常磐音楽舞踏学院」の設立になり、日本人による、日本人のために、日本のフラショーを創ることでした。

昭和41年1月15日にオープンしましたが、地域の人々には2、3年ぐらいで潰れるかもしれないと言われていました。中村氏は、この事業は、常磐炭鉱のためではなく、地域住民と共にるべきとして、きめ細かな説明をし続けました。行動も地域との共生で、例えば、売店での一番売れ筋は一流の店のものではなく、地元の人が作ったものを推し進めました。こうして地域との一体化を図っていました。

### 3. 『適時適切』の決意

オープンの時期は、1年前でも1年後でもなく昭和41年でなければならなかったのです。それは、時代背景と構想目的が一致しなければならなかったからです。ですから、常磐ハワイアンセンターオープン時は、競合相手のいないオンリーワンの状況でした。2、3年後に急速に同様のセンターが増えていきました。

その後、時代状況に適応して施設の魅力を高めるべき、競合戦略を採用しました。その頃、東京では温浴施設が出来初め、中村氏は2年間ほど世界を視察し、ファミリーが一緒にに入る温泉の使い方を研究しました。日本のハワイ「常磐ハワイアンセンター」から「スパリゾートハワイアンズ」に名称変更したのは平成2年でした。お客様にじっくり保養してもらえるよう温浴施設を充実させ、3世代でも利用できる「スプリングパーク」もこうして誕生いたしました。

事業継承については、伝えること、譲ることの難しさを感じながら、適時適切に平川総支配人へバトンタッチいたしました。

### 4. まとめ

「企業成長のため、意図的に組織の外部環境と内部環境を不適切な状態」にし、それをバネに成長する経営戦略を選択しました。成功の理由は外部環境への優れた環境適応であった一方で、強烈な危機意識をバネに新規事業に必要な経営資源を積極的に獲得し、短期間で内部環境の不適応状態を解消したからなのです。トップマネジメントの力量は如何に危機意識の強弱で決まるのではないか。正に、今が企業改革のチャンスです。業界のしがらみ、通念など固定観念に捉われず改革できるのではないか。大儀があるから。今なら、これからの方針性、選択し得る改善方法を早急に洗い出して考えるべきです。ということをやってきたのが中村氏で、その足跡から私は判断します。

最後に、中村氏は私の父に教えられたことが只一つあるそうです。それは料理の食べ方で、大盛りの方から手をつけ、銘々盛りは最後にとておくということを父から教わり感動したということです。料理は大皿から…ということです。

# 納涼懇親会



## 7月グループ会報告

### C/S 研究グループ会

■日 時 7月22日(水曜日) 18:30~

■場 所 報徳苑

■内 容 「顧客の期待度が店舗の実力を超えた場合、顧客は商品やサービスに対して「不満」となる。

「不満」の度合いによって、潜在的なままで客離れが進むか、顕在化(表面化)してクレームや改善要求、提案などが飛び出す。逆に店舗の実力が顧客期待度を上回っている場合は、顧客へ喜び、楽しみ、驚き、といった面で相応に関心・感動与えており、その時点での顧客満足度が高く「満足している」と言える。という課題について意見交換を行った

①お客様が入っている店(企業)はソフトの部分が充実している。

→お客様に対して謙虚な態度(自尊心を傷つけない話し方)

②何代も続いている企業の特徴(老舗)⇒時代や顧客の変化に合わせ企業も変化



### 経営戦略グループ会

■日 時 7月14日(火曜日) 8:00~

■場 所 サラブレッドCC

■内 容 7月のグループは、人材交流GRとの合同ゴルフコンペを開催し交流と親睦を深めました。優勝者は(株)サンケンの佐藤友計社長でした。

### 人材交流グループ会

■日 時 7月14日(火曜日) 8:00~

■場 所 サラブレッドCC

■内 容 納涼会(第三グループとの合同ゴルフコンペ) (担当:黒須副グループ長)

サラブレッドカントリークラブにて、経営戦略グループとの合同ゴルフコンペを開催いたしました。

4組14名でのコンペで、各グループの懇親を深めました。



### 経営品質向上グループ会

■日 時 7月27日(月曜日) 18:30~

■場 所 割烹一平

■内 容 会員同士で情報交換をしながら、一平さんの美味しい料理・お酒をいただき、楽しい一時を過ごしました。

## いわきブランド研究会

- 日 時 7月31日(金曜日) 18:30~
- 場 所 フランス料理「Kitao キタオ」
- 内 容 「常磐沖潮目の魚」の商標登録と公開シンポジウムについて

始めに、武藤会長より「地域団体商標登録制度」についての話がありいわき経済同友会としての登録は認められないとの報告がありました。

続いて来年2月にいわき新舞子ハイツと共に開催されるシンポジウムについての進捗状況とそれについての会員相互の意見交換がありました。

会議終了後「キタオ」のシェフが厳選した地元の素

材(魚、野菜)を使用したフランス料理に舌鼓を打ち大満足のうちにお開きとなりました。

追伸 今回は月末にもかかわらず14名ものご参加者をいただき有難うございます



### 新入会員紹介

皆さん宜しく  
お願いします!



### 木部浩行

(株)木部新聞  
代表取締役社長  
業 種／新聞販売業  
生年月日／昭和43年7月11日  
会社所在地 〒970-8026  
いわき市平字大町26の2



### 山野辺浩良

(株)山野辺電機商会  
代表取締役  
業 種／電気工事業  
生年月日／昭和39年11月24日  
会社所在地 〒970-8024  
いわき市平北白土字篠田21番地-1

### 8月グループ会ご案内

- CS研究グループ会／8月26日(水) PM6:30～バークイーン 納涼懇親会 夏の疲れを一気にとる
- 経営品質向上グループ会／8月20日(木) PM5:00～いわきららミュウ 8月例会担当
- 経営戦略グループ会／8月25日(火) PM7:00～カーヴ隠れや いわき店 まとめ&暑気払い・その他情報交換
- 人材交流グループ会／8月26日(水) PM6:30～建設会館 「中小企業の存続と地域社会での役割」の講演及び意見交換会
- いわきブランド研究会／8月24日(月) PM6:30～報徳苑 「いわき市水産業振興プラン」について

会員はどのグループ会にも出席できます。グループ長にお申し込み下さい。

## 8月通常例会開催のご案内

**8月20日(木)** 会場/いわきららミュウ研修室 2F 会費/2,000円

17:00～17:25 例会  
17:30～19:00 講演会  
19:00～20:00 小名浜美食ホテル内  
「舷」にて会食

テーマ 「失敗から学ぶ経営学」  
講師 (株)エス・ティー・ジー 大阪虎屋 塩崎会長

会員皆様には、ご多用のとは存じますが、是非ご参加をお願いいたします。

### いわき経済同友会 ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます  
●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。  
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

発 行 いわき経済同友会 里見 潤  
編 集 情報委員会 委員長 山名二郎  
副委員長／阿部晴康・岩尾英子・坂本和久・清水雅昭・中田博道

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館4F  
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211  
<http://www.seaiwaki.jp>  
E-mail:doyukai@triton.ocn.ne.jp